

お釈迦様(その6)

十大弟子のうち残り8人の弟子

1:摩訶迦葉(まかかしょう):頭陀第一、人間の基本とも言える「衣食住」へのこだわりを捨て、欲望にとられない修行をした。

2:阿難陀(あなんだ):多聞第一、お釈迦様に25年間も仕えた人物で、誰よりもお釈迦様の説法を聞いていた。

3:優波離(うぱり):持律第一、戒律を守る性格から「持律第一」と言われるようになった。

4:阿那律(あなりつ):天眼第一、修行の末に失明するが、物事を見抜く「天眼」を手に入れた。

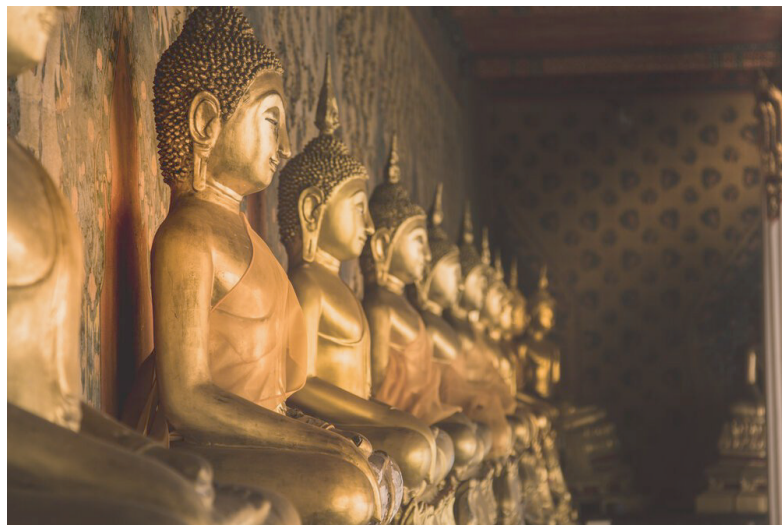
5:須菩提(しゅぼだい):解空第一、仏教の思想を深く理解していたため、お釈迦様の良き話し相手だった。

6:富楼那(ふるな):説法第一、人々に教えを聞かせることが上手だったため「説法第一」と呼ばれた。

7:摩訶迦旃延(まかかせんねん):論議第一、お釈迦様の教えを人々に分かりやすく説いていた。

8:羅?羅(らごら):密行第一、お釈迦様が出家をする際に、城に残した息子・ラーフラのこと。

今の仏教があるのは、苦しい修行を経験し瞑想の末に悟りを開いたお釈迦様のおかげ、と言っても過言ではありません。お釈迦様の教えを知ると、人生がさらに豊かなものになることでしょう。



本堂から山門向こうの田植え風景を望む(令和3年5月23日撮影)



そして何と最近では、0(ゼロ)葬が流行りつつあるのだとか。0(ゼロ)葬とは、文字通り、全て0(ゼロ)だそうです。お経が0(ゼロ)、そして悲しいことに、お骨も0(ゼロ)という事で、葬儀会社がお骨も引き取ってくれるとのこと。
コロナ禍のこの一年で、大切な事が失われていきました。

一緒に勤めて欲しいという依頼にいきつきはしないかと危惧しています。都会の方では、宗教儀式を勤めない葬儀が増えているとのこと。

儀式の内容も短縮化の傾向です。コロナのせいで、人と会う時間を短く、人と会う回数を少なく、という訳でしょうか。葬儀式の中で初七日法要の読経は普通の事となりました。その内、通夜と葬式、お身内葬へ。

日常の風景とは異なり、お寺を取り巻く環境は大きく変化しました。定例法要が、昼のお斎(法要料理)を挿み朝席と昼席を勤めていたのが、お斎の接待なしとなり朝席だけのお勤めに。
各門信徒宅で勤めていた法事は、善教寺の本堂で勤まることが多くなりました。

全く変わりありません。

住職レター

今年の梅雨は例年より早く入りました。週間天気予報では連日、雨もしくは傘マークが続きます。この雨で、新型コロナウイルスが流れ去ってくれたら良いのですが。
お寺の周りでは、田植えが終わったようです。コロナ禍で緊急事態宣言下となっていますが、日常の風景はいつもと